



1 鼻ぐり井手の劇を演じる南小児童 2 4 園児のお遊戯 3 熊本菊陽学園の職員と南小児童による「よさこいソーラン節」 5 馬場桶の獅子舞が披露され無病息災を願う 6 鼻ぐり井手の渦をイメージした「渦巻太鼓」を演奏する菊陽武蔵剣豪太鼓 7 堂々と鼻ぐり井手の造りや由来などをガイドする子どもたち 8 鼻ぐり井手 9 町で採れた野菜やイモのてんぷらなどの出店でにぎわう会場

1 「がんばろう熊本！」と書かれた横断幕を掲げてポーズする園児 2 ステージで野菜ジュースを6個積み上げ、7個目をどうするか考える親子 3 にんじん釣り大会に参加し、勢いよく釣り上げる女の子 4 大きくて甘いにんじんを畑で収穫し、笑顔を見せる子どもたち 5 にんじん詰め放題の販売ブースでたくさんのにんじんを楽しく詰める親子 6 大勢の家族連れに手を振るキャロッピー

## 地域の宝を守る「鼻ぐり井手祭」

鼻ぐり井手は400年以上前に加藤清正が築いたとされます。現在も176畝の田畑を潤す農業用水路「馬場桶井手」の一部で、水が渦を巻きながら下っています。この歴史的・文化的遺産を後世に伝えるため、第8回鼻ぐり井手祭が11月20日、鼻ぐり井手公園で行われました。

菊陽武蔵剣豪太鼓による鼻ぐり井手の渦をイメージして作曲された「渦巻太鼓」や、鼻ぐり井手中州山周回散策、白菊園園児の踊り、熊本菊陽学園職員と南小児童によるよさこいソーラン節、鼻ぐり井手保存会による餅投げが行われ、会場を盛り上げました。

南小3、6年生は中州山側の公園で、堂々と来場者に鼻ぐり井手が造られた経緯や役割を説明。さらに祖先の思いを歌や演劇、楽器演奏などでも表現しました。最後に児童は「地域が代々守ってきた宝である鼻ぐり井手を広めたい」と力を込めました。

祖先の思いを受け継ぐ  
後世に伝えたい地域の宝

## 笑顔の収穫「すぎなみフェスタ」

「復興に向けての勇気を与える」をテーマに、すぎなみフェスタ2016が11月12日、菊陽杉並木公園で行われました。約6,600人が来場。

大勢の家族連れなどが野菜ジュースの積み上げ大会や仮面ライダーエグゼイドショー、53団体による展示や野菜などの販売、にんじん収穫体験などを楽しみました。

会場は菊陽武蔵剣豪太鼓による力強い演奏でスタート。司会のMEGさんと幸栄さん、すぎなみフェスタPR大使のもっこすファイヤー、キャロッピーが盛り上げました。

野菜ジュース積み上げに参加した北川暖さん(6歳、光の森7町内)は「楽しかった。来年もやってみたい」と笑顔。この他、尚綱大の学生による食育クイズやビンゴ大会も行われました。

にんじん収穫体験には、過去最高の424人が参加。会場中に「楽しい」と喜ぶたくさんの笑顔がありました。

あふれる笑顔  
みんな楽しい収穫祭